

封筒・名刺のプロの営業マンが
お客様のご要望にパーフェクトに対応。
ビジネスシーンでの第一印象をビシッと決める。



THE INSATSU SHIMPO

(木曜日発行) 第4539号 (昭和33年11月11日 第三種郵便物認可)

発行所 (株)印刷出版研究所
〒112-0041 東京都港区早稲田町4丁目6番地(TEL)03(5755)7925
FAX:東京03(5755)7930・大阪06(632)4944
1530-0044 東京都中央区文京区十軒町4丁目1番地(TEL)03(5755)8066
年間購読料18,500円(税込) (郵送料別)0120-4-47973

省エネ設備補助金
交付は3060件
平成26年度補正予算
「地域工場・中小企業等
の省エネルギー設備導入
補助金」最新モデル省エ

初の「ツースター」12社を認定

全印工連CSR認定制度

戦略的CSRの推進へ 他業種との連携も視野



CSR推進専門委員会の池田委員長(右)と江森副委員長

全日本印刷工業組合連合会は、2013年度からCSR(企業の社会的責任)に関する認定制度を開始した。2015年度は、初年度にツースター認定を取得した企業が更新の時期を迎え、認定制度初のツースター認定企業が誕生した。2年後には最上位認定となるスリースター認定を開始すべく、制度設計を行っている。今月6日にはツースター認定の概要と今後の展望について記者発表を開き、島村博之会長、池田幸寛全印工連CSR推進専門委員会委員長、江森克治同副委員長、滝澤光正同副委員長、鍋島裕俊同副委員長、鍋島裕俊同副委員長が出席した。

記者発表の冒頭、島村 界とよみのために大きな意気込みで「全印工連のCSR 味のある制度だ」と述べ、R認定制度は他業界にも、認定制度が全印工連の枠を超えて業界に広く普及する可能性にも触れた。経済産業省にも高く評価されている。発注者からさらに信頼される業

組まなければ世の中に認められない時代となっていった」と述べた。全印工連CSR認定制度では、認定内容に応じてツースター、スリースター、スリースター以上の3つのレベルを用意し、取組みのステップアップを図れる。現在、ツースター認定企業は7社となっている。認定企業は2013年にスタートし、同年6月に全印工連の会員企業40社がツースター認定に登録された。2年間の有効期限

を要したため、本年6月29日に開催したCSR認定委員会において、うち28社が横浜市立大学CSRセンターの認定更新審査を受け、ツースター認定を刷新した。新規4社もツースター認定された。その評価チェックリストは、「Eシスター」の策定、ステークホルダーの二一スと社会的責任の明確化、目的および目標の設定、組織体制と役割運用管理、内部監査など大項目のもとに55の要求事項があり、すべてクリアして合格という厳しさを示している。また、CSR取組の有効性評価では、全印工連CSRビジョンで示す8つの項目(コンプライアンス/環境/情報セキュリティ/製品/顧客/社会貢献/人材/イノベーション)を評価する。2017年度にはスリースター認定も加わり、さらに一段上の取組も評価が可能になる。制度の今後について池田CSR推進専門委員会委員長は「全印工連のCSR認定の内容は印刷業界だけでなく、一般企業にも通じるものがある。来年度以降、他の業種、団体とも連携しながら、二一サルポスト(広島市)、ミヤプロ(高松市)まで捉え、印刷業界の方向性を示唆するイベントとして毎年注目されている。今年2月に開催されたpage2015には40社(508小間)が出展した。今回もコンベンションセンターの展示ホールB・C・Dを使用。JAG A.Tでは6万8千人の来場者数を見込んでいる。開場時間は3日間とも午前10時から午後5時まで。入場料は1千円(税込)。出展案内・出展申込書

インキグリーンマーク制度、9月から運用 バイオマス割合を指標に 環境負荷の低減促す

印刷インキ工業連合会(高橋弘二会長)は、業界独自の新たな環境マーク制度として「インキグリーンマーク制度」を構築した(本紙6月18日付で既報)。9月1日からの運用開始にあたり5日に記者発表を行った。インキ業界における環境推進活動の活性化を目的とし、オフセットインキ製品を対象に環境対応レベルを段階的に付けする。インキ業界の環境対応レベルを段階的に付けする。インキ業界の環境対応レベルを段階的に付けする。

バイオマス割合を指標に環境負荷の低減促す。インキグリーンマーク制度は、業界独自の新たな環境マーク制度として「インキグリーンマーク制度」を構築した。9月1日からの運用開始にあたり5日に記者発表を行った。インキ業界における環境推進活動の活性化を目的とし、オフセットインキ製品を対象に環境対応レベルを段階的に付けする。インキ業界の環境対応レベルを段階的に付けする。

在、バイオマス割合に基づく自社製品の組成を再調査しているところだ。iマーク制度が対象とするのはオフセットインキ製品で、会員からの

リテイ/品質/雇用/労働安全/財務・業績/社会貢献/地域志向/情報開示/コミュニケーションに依り、各項目における取組みがステークホルダーや自社の経営にとって、本当に有効なものとなっているからと書類と実地の両方で評価する。

SR認定制度を普及、前進させ、日本の産業界の見本となる制度にしたい」と話す。広く外部に向けたシンポジウムなどを開催する計画もある。全印工連CSR認定制度・第一期ツースター認定企業
日進堂印刷所(福島市)、協進印刷機(横浜市)、大川印刷(横浜市)、亜細亜印刷(長野市)、池田印刷(東京都品川区)、三六グループ(東京都江東区)、文唱堂印刷(東京都千代田区)、新日本印刷(名古屋市中区)、二和印刷(名古屋市中区)、アインズ(滋賀県蒲生郡)、ユニバーサルポスト(広島市)、ミヤプロ(高松市)

page2016
出展募集を開始
来年2月3～5日に開催

BEST 使うに簡単! 使って感嘆!
Non VOC MCエッチ液
誠伸商事株式会社 www.seishin.co.jp

「ワンワンがいてるねえ」と幼い孫に話しかけた母が、怪訝な顔つきで「なんだからイヌみたい...」とわが娘。この思い出話を笑えない時代になってきた。情報過多の中で育てた若者と話して、「すべてを解ったつもりになっている」不快感を覚える機会が増えたからだ。通称尾木ママで知られる教育評論家の尾木直樹さん(37歳)まで言葉交わさず、言葉が通じないという。なぜなら、感性で知覚する以前に、なんでも言葉で解釈する癖が身に付いてしまっているから。人間は、解らなからこそ、あらゆる感覚を鋭敏にして対象を把握しようとする。▼予備校の講師を務める友人も、文字と映像の大洪水を泳ぎ渡る世代の変化を感じ取った。これに「すべてを解ったつもり」の一方で、自分が知らないこと、解らないことに関して「知らない」と都合よく解釈する傾向が強いとか。情報伝達のプロである印刷業界には、言われるままに伝えるだけでなく、受け手の感性や思考に力強く迫る「意思ある編集力」が